

雜載

〔山州名跡志^五〕萱穗橋^{橋板}在御所北名義不詳此橋紀州高野山御廟橋奥州松島五臺堂^ヲ梭橋ニ等ク造惡不善ノ輩ハ渡ルコトヲ不得也每歲一二人アリ土人皆見ルナリ

〔遊囊贖記^八〕御廟ノ橋古ヨリ橋板ノ數三十七枚ノ裏ニ三十七尊ヲ書付ルコト是剛界曼陀羅ノ口傳アリ板ノ厚サ橋ノ長サ横幅マデ學侶ノ秘密ナリトイフ近頃ツクリカヘアリケレバ河中ニ下立テ仰見ルニ梵文鮮明ナリ

〔八雲御抄^{三上}〕橋

雲のかけはし禁中又かさ、ぎのわたせるもあり

〔新拾遺和歌集^{冬六}〕冬の歌の中に

夜さむなる豊のあかりを霜の上に月さえわたる雲のかけはし

前大納言爲家

〔夫木和歌抄^{二十一}〕長承三年九月顯季卿家歌合

藤原顯方

あまのがは雲のかけはしこえゆかむいかでか月のすみわたるらん

此歌判者基俊云天河に無雲梯只有鵲橋詩ども、烏鵲橋とつくれり

〔八雲御抄^五〕橋

かさ、ぎの天河也

〔八雲御抄^{三上}〕七月 七夕略中あまのがはに、そのよ二のかさ、ぎきたりてはしとなる也

又たま橋ふなばしうちはしといふうちはしはたものふみきにてわたすといへり略中又もみ

ちのはしはまことにあるにはあらずたとへばあらましにいふなり

〔書言字考節用集^{乾一}〕鳥鵲橋カサ、ギ、シ淮南子又唐蘇州南門有鳥鵲橋見白文集カサ、ギ、シ

〔家持集〕冬歌

かさ、ぎのわたせるはしにおく霜の白きをみれば夜ぞ深にける○又見新古今和歌集